

ホールにおける避難誘導に関する考察

宮崎市民プラザ
技師 末廣 信太郎

【要 約】

避難訓練コンサートに参加し避難する側を体験することで、大人数の避難誘導について調査した。また、すでに避難訓練コンサートを行った施設の担当者への聞き取りも行った。宮崎市民プラザでの消防訓練や避難誘導について検討し、視察先での情報をもとに改善策を提案した。協議の結果、実施できなかったものもあるが、今後も施設職員として非常時にも適切な行動が取れるよう防災意識を高めていきたい。

はじめに

宮崎市民プラザでは年に2回、消防訓練を行っているが休館日に行っているため、ホールの客席には人がいない状況での避難誘導となっている。そのため、実際に人が入った状態ではどのようなのかは想像するしかない。特に東日本大震災以降、防災意識の高まりとともに、「避難訓練コンサート」が各地で開催されている。避難訓練コンサートは、公演中に地震が発生したことを想定し観客を避難させる催し物で、参加者の防災意識を向上させるだけでなく、施設職員にも大人数の避難誘導を実際に経験することができ、非常時に対する良い訓練にもなっていると考えられる。

本研究において、他施設で開催される避難訓練コンサートに観客として参加し、大人数の中で誘導される側を経験することで非常時の観客や職員の動きを観察し、避難誘導や防災訓練に役立てる。また、過去に避難訓練コンサートを実施した実績のある施設を訪問し、担当者から避難の様子などについて聞き取りを行うことで、大人数の避難誘導について調査する。

第1章 避難訓練コンサートへの参加（きらり鎌ヶ谷市民会館）

第1節 きらり鎌ヶ谷市民会館の概要

千葉県鎌ヶ谷市にある「きらり鎌ヶ谷市民会館」は、540席の「きらりホール」と大小7つの学習室や集会室をもつ施設である。平成24年4月に開館し、ショッピングプラザ鎌ヶ谷という商業施設と一体化したつくりになっており、その3階が市民会館になっている。

今回の避難訓練コンサートの会場である「きらりホール」は、宮崎市民プラザのオルブライトホール（客席数497）と同規模であるため、観客を避難誘導する様子は参考になると考え、視察先として選定した。

第2節 避難訓練コンサート

令和元年10月6日に行われた避難訓練コンサートは、コンサート中に緊急地震速報が鳴り、震度6強の地震が発生、地震により下手袖で火災が起こり、屋外に避難するという想定だった。避難後は15分間の休憩ののち、消防からの講評があり、コンサートを再開という流れであった。コンサートは市内の公民館を拠点に活動している「フェリーチェマンドリンククラブ」による演奏で、舞台上は反響板が組まれていた。なお、避難訓練はホールのみで行われ、学習室やショッピングセンターなど他の施設は通常営業を続けていた。

開演から20分ほど過ぎた時に緊急地震速報が流れ、避難訓練が始まった。舞台上の演奏者は袖にはけると同時に、舞台担当者がメガホンで客席に呼びかけを行った(写真1)。並行して、避難誘導係が客席で呼びかけを行っていた。避難経路の安全確認ののち指定の避難場所に避難した(写真2)。避難場所では整列し、人数確認を行い、自衛消防隊長へ避難完了の報告がなされ、隊長は消防隊への報告を行った。

写真1：訓練開始時の様子



写真2：避難場所での様子



第2章 避難訓練コンサート担当者への聞き取り（練馬文化センター）

第1節 練馬文化センターの概要

東京都練馬区にある練馬文化センターは、大小2つの多目的ホールをはじめ、ギャラリー、集会室などを併設した文化施設である。昭和58年4月に開館し、大ホール（こぶしホール）の客席数は1,486席、小ホール（つつじホール）は592席である。

練馬文化センターは、5月に避難訓練コンサートを実施しており、その時の避難の様子や誘導の際の職員の対応などについて、担当者より話を聞くために訪問した。

第2節 避難訓練コンサート

避難訓練コンサートは令和元年5月28日に大ホールにて行われた。定員600名に対して465名の来

場があり、1階席が一般来場者、2階席は区の所管課や業者などの関係者席として使用した。コンサートは警視庁音楽隊の演奏で、終演後には防災グッズをお土産として出口で配布した。また、屋外の駐車場にはVR防災体験車や起震車、煙体験ハウス、消火訓練などの体験コーナーを設置し、防災をテーマとした総合的なイベントの一部として実施していた。

開演後、約20分経過時に震度5強の地震が発生し、地下1階給湯室から出火したという想定で、屋外の避難場所へ避難した。観客をあらかじめA～Eの5エリアに分けており、そのエリアごとの避難誘導担当者が所定の経路で誘導するという手順であった。実際の非常時には近くの非常口から各々避難するというのが通常であるが、避難訓練で怪我や事故が発生しては本末転倒であるため、それを防ぐための配慮であるということであった。避難後は休憩ののちにホールに戻り、消防署による短い講評、コンサートの再開という流れであった。

第3章 宮崎市民プラザの消防訓練及び避難誘導について

第1節 改善策の提案

県外施設の視察を終え、宮崎市民プラザの避難誘導について下記の5点を提案し、他の職員からも意見の聞き取りを行った上で、防火管理者である副館長と共に実施の可否を検討した。

①自衛消防組織の係名をヘルメットに貼り付ける

〔目的・理由〕

各職員（自衛消防隊員）が、自分の役割をはっきりと意識し、他の人（来館者・職員）からも認識されるようにするため。

〔方法〕

係名（通報連絡係、消火係、避難誘導係）が書かれたカードを作成し、マジックテープで各自のヘルメットに貼り付けられるようにする。訓練時および非常時には指揮係の指示により担当係のカードを自分のヘルメットに貼り付ける。

〔視察先の例〕

きらり鎌ヶ谷市民会館では、「避難誘導係」、「地区隊長」などのA3サイズのプラカードを首から提げていた（写真3）。自分や他人から係がはっきりわかるというメリットがあるが、この方法では避難の際に紐が何かに引っかかった場合に危険であり、介助をする際に邪魔になる可能性もある。

〔職員の意見〕

実際の非常時には人数が少ないことも想定され、1人が複数の係を兼任することなども考えられるため、そのようなときにどう対応するか。

ヘルメットにカードを付けるという方法ではなくベストを着用するようにしてはどうか。

写真3：避難誘導係のプラカード



〔対応〕

非常時の係の割り振りやカード取り付けの
手順が具体的にイメージできず、場合によっ
てはそのような時間もないかもしれない。避
難誘導係は誘導棒を持つことで目立たせるな
ど他の方法も含めて再検討する。

②主催者に「避難誘導員配置図」を提出してもら

〔目的・理由〕

現在は、主催者の役割分担を把握するために
名前を記入した係員名簿を提出してもらって
いるが、避難誘導に関しては明記されていな
い。打ち合わせ時に非常時の避難誘導につい
て協力をお願いしているが、具体的な方法や避難
経路などについて質問されることもあり、主催
者側の役割やプラザ職員との連携について明
確にするために、誘導員配置図を提出してもら
うようにする。

〔方法〕

ホールドア係については、係員名簿ではなく
誘導員配置図に名前を記入する欄を設けた様式
を準備し、それに記入し提出してもらう。提出
された様式はコピーし、舞台職員・総務係・主
催者の三者で情報共有する。誘導員配置図には
避難経路も記載しておく。

〔視察先の例〕

練馬文化センターでは、ホール内の各扉に避
難誘導員として主催者側に担当者を割り当て
てもらい、その名前を記入して提出してもらっ
ている（資料1）。

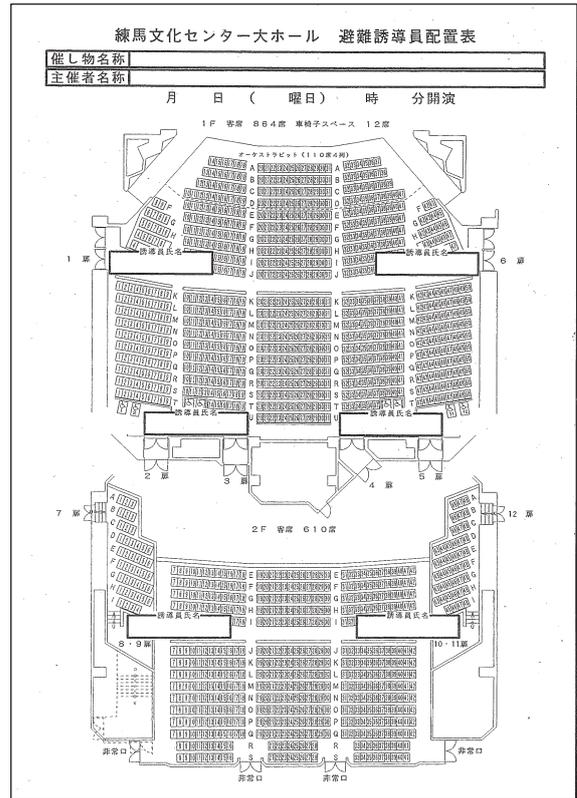
〔職員の意見〕

現在の方法では情報共有ができておらず、非
常時にはすぐに呼びかけたり連絡したりするこ
とができないため、関係者（舞台職員・総務係・
主催者）で共有する必要がある。
スタッフの数が少ない時にはどのように対応す
るのが課題である。

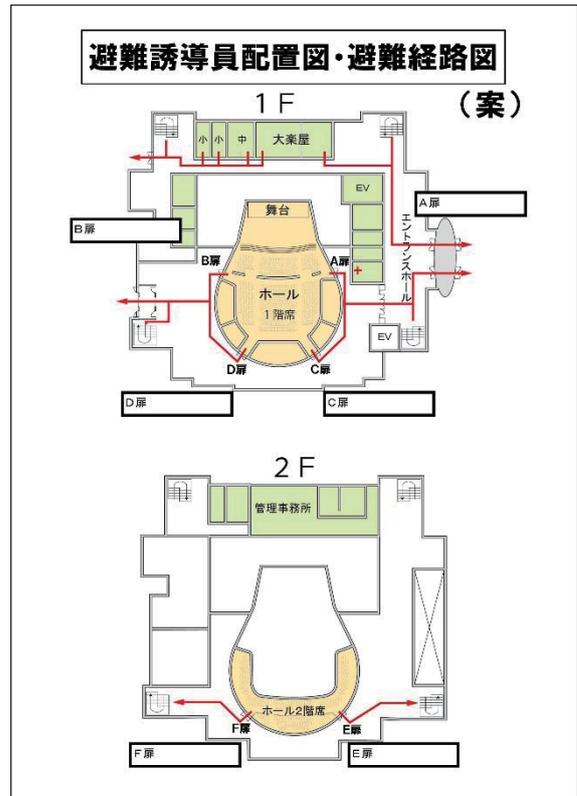
〔対応〕

総務係と協議しながら「避難誘導員配置図」の様式を作成する（資料2）。

資料1：避難誘導員配置表



資料2：避難誘導員配置図の案



③主催者の避難誘導員用ヘルメットの設置

〔目的・理由〕

避難誘導員の安全確保を図り、来場者やプラザ職員から担当者を認識しやすくするため。

〔方法〕

もぎり台の内側にフックでヘルメットを吊り下げておく。主催者には打ち合わせ時や催し物当日、ホワイエを回るときにヘルメットについて説明し、非常時の安全確保に役立ててもらおう。

〔視察先の例〕

避難訓練コンサートという催し物の性質上、初めから舞台上に出演者側の避難誘導係のためのヘルメットを置いていた。通常の催し物のときは、舞台上ではないにしても、出演者や主催者用にヘルメットを準備していると考えられる。

〔職員の意見〕

誘導員配置図や災害時の確認事項の用紙にも記載しておく。

ヘルメットの色を変えるなどして、プラザ職員と区別できるようにしておく。

〔対応〕

もぎり台にヘルメットを設置した(写真4、写真5)。ヘルメットには目立つよう黄色で「主催者」というラベルを貼り付け、プラザ職員と区別できるようにした。

写真4：主催者用ヘルメット



写真5：もぎり台のヘルメット置き場



④舞台と調整室にトランシーバーを設置

〔目的・理由〕

トランシーバーの会話を聞くだけで、内線による連絡がなくてもある程度の状況把握ができるため。また、内線による連絡方法は1対1であるため、トランシーバーを使用した1対多数の連絡方法がより効果的であるため。

火災報知器が発報した場合、ホールでは音響装置の電源が自動的に落ち、非常用を除くすべての音が止まるようになっている。現状ではパニック防止装置により火災報知器が作動したことがわかるのみで、それ以上の状況が把握できず、主催者への報告や今後の対応について相談ができない。一方、事務室では状況確認や初期消火などの対応に追われ、人員が少ない時には各所への連絡も遅くなり、内線を使用した1対1の連絡方法ではさらに時間がかかることが予想される。

〔方法〕

ホール舞台袖と調整室にトランシーバーを設置する。館内では普段の連絡でも使用しているため、非常時にのみ電源を入れ使用する。

ただし、非常時の初期段階は状況把握をしているため、不正確な情報が飛び交うことも考えられる。また、不用意にホールからの呼びかけをすることでかえって混乱を招くかもしれないという課題もある。

〔職員の意見〕

火元の確認や避難誘導の際の連絡などにも活用できるほか、火災時ではなくても停電など不測の事態が起きた場合にもトランシーバーは有効に活用できる。

現在使用していないトランシーバーがあるので、それが使えるのではないかと。

〔対応〕

使用していないトランシーバーは、通常使用しているものとは周波数帯が異なり、互換性が無い。今年度中に、現在使用しているものと交信できる機材を追加購入する。

⑤1月の消防訓練ではオブザーバー参加にさせてほしい

〔目的・理由〕

カメラで訓練の様子を動画などで記録撮影し、職員で共有できるようにするため。

〔対応〕

令和2年1月20日に行われた消防訓練で、2階事務室に定点ビデオカメラを設置し、4階大会議室・ギャラリーでは手持ちカメラで訓練の様子を撮影した。映像は各職員が見られるよう共有フォルダに保存した。

おわりに

日向灘沖を含む南海トラフを震源とする巨大地震は、今後30年以内に発生する確率が70～80%とされている。実際に起きた場合は命にかかわる事態となり得るため、施設職員として考えられる限りの備えをしておく必要がある。

宮崎市の作成したハザードマップによると、宮崎市民プラザは津波による浸水は想定されていないが、水害による浸水は想定されている。いつ起きるか予想ができない地震に限らず、災害に対しては常に心構えが必要である。過去に事業として避難訓練コンサートを行ったことはないが、合同防災総合訓練として他の団体に協力してもらい、ホールで観客がいる状態の避難誘導の訓練を行ったことがある。避難訓練コンサートに限らず、そのような実践的な防災訓練は単発的ではなく継続的に行い、課題の発見と解決のサイクルを繰り返し、試行錯誤していくことにより災害に強い組織や施設となるのではないかと考える。

引用文献・参考文献・参考資料リスト

- 1) 「宮崎市 洪水ハザードマップ〈中心部・北部域〉」 宮崎市役所 2019
- 2) 「宮崎市 津波ハザードマップ」 宮崎市役所 2013